



1. 閣僚級 ITER 理事会開催：各極閣僚が世界の将来のエネルギー需要に応える ITER の重要性を再確認

閣僚級の代表は、世界の未来のエネルギー源としての核融合の重要性を再確認し、事実上無尽蔵で、環境への負荷も少ない核融合エネルギー開発の道のりにおいて、不可欠なステップと位置づけられる ITER 実験装置の重要性を強調しました。また、参加者は ITER での国際協力体制が、将来の世界規模の科学協力の新しいモデルとなることを強調しました。

会合は、欧州委員会エネルギー担当委員、欧州原子力共同体代表であるギュンター・エッティンガー氏の呼びかけで 9 月 6 日に ITER 機構本部にて開催されました。

ITER 加盟 7 極（中国、欧州、インド、日本、韓国、ロシア、米国）の閣僚級代表が会するのは、プロジェクトの歴史の中で 2 回目です。今回は、建設作業がハイスピードで進展していることを背景に、閣僚級の代表が計画実施の進捗を議論し、このような初めての計画ならではの挑戦、特に、スケジュールやコスト抑制などについて認識し、ITER の成功に向け共に努力することを再確認しました。

ITER は南仏、サン・ポール・レ・デュランスにおいて 2010 年より建設中です。会合において、フィオラゾ仏高等教育・研究大臣は「ITER は重要な社会的関心に答え、科学への熱意を育むものであると同時に、未来に希望を抱かせる困難な技術的挑戦である。」と述べました。

ITER サイトで建設が進むと同時に、トカマク型核融合炉のハイテク機器が ITER 加盟極の企業にて製作されつつあります。現在、ほとんどの契約が産業界を先導する企業との間で締結され、一部の機器は ITER サイトに到着し始めました。2014 年 6 月の組立て開始に合わせて最初の大型機器が到着する予定です。

閣僚級の代表は、建設サイトを訪問し、今日までの ITER の進捗を賞賛しました。本島修 ITER 機構長は、「この良好な進捗状況は、我々がユニーク ITER チームと呼んでいる ITER 機構と 7 極国内機関の強いパートナーシップによる多大な協力のたまものである。ITER 参加極による我々への信任に感謝する。」と述べました。

エッティンガー委員は、「ITER 計画は歴史的事業であり、不断の努力と革新的な方法で様々な困難、特に、コストを抑えつつタイトだが現実的なスケジュールを維持するという困難に挑戦することが必要である。」と述べました。

これに関連して、閣僚級代表は、各国内機関と密接に協力して ITER 建設に向けたマネジメントの改善計画を提案するよう ITER 機構に対し要請しました（図 1，2）。

2. ITER 韓国国内機関(KODA)の新オフィスビルの開所式開催

ITER 韓国国内機関 (KODA) の新たなオフィスとなる韓国国立核融合研究所 (NFRI) のオフィスビルの竣工式（開所式）が 9 月 30 日に開催されました。オフィスビルは、NFRI の所有するトカマク実験装置 KSTAR の実験棟の隣に建設されました。地下 2 階、地上 6 階からなり、4 階と 5 階の一部が KODA のオフィスとなります。ビルの 5 階には日本をはじめとした各極国内機関、ITER 機構 (IO) のためのオフィスも用意されています。

式典には、韓国政府代表、NFRI 所長、本島 ITER 機構長、韓国基礎科学研究所 (KBSI) 所長、多田原子力機構副部門長らが臨席しました（図 3，4）。

3. ITER サイトへの輸送試験の実施

ITER 機構は、欧州国内機関と仏原子力庁の協力のもと、地中海近くの町ペール・レタンから ITER サイトま



図1 トカマクピットに集合した閣僚級 ITER 理事会各極代表者。



図2 閣僚級 ITER 理事会議事風景。



図3 韓国国内機関オフィスビル全景.



図4 韓国国内機関オフィスビル開所式での記念写真.

での大型の物納機器の輸送を実施するため輸送試験を行いました. 長さ 46 m, 幅 9 m, 総重量約 800 トン (コンクリートブロック 360 個のダミー荷重 600 トン, トレーラー 185 トン) の物納機器を模した荷物は, ベール・レタンの海岸を 9 月 16 日の夜 9 時 45 分に出発し, 9 月 20 日朝 4 時 45 分 ITER サイトに到着しました. 車列は, 100 m 以上にわたり, 5-15 km のスピードで一般道を走行し, 途中で 4 箇所の高速道路を横断し, 4 晩かけて 104 km の道のりを旅しました. この道路は, 2008 年から 2011 年にかけて道幅の拡張, 橋梁の強化等が行われました. ITER を構成する機器の輸送は, 2014 年半ば頃から始まり, 2014 年から 2019 年にかけて 230 回の輸送が行われる予定です (図 5). これらの詳細については ITER 機構ウェブサイト (下記) のプレス・リリースをご覧ください.

http://www.iter.org/doc/www/content/com/Lists/list_items/Attachments/527/2013_09_Convoy.pdf



図5 輸送試験の様子.